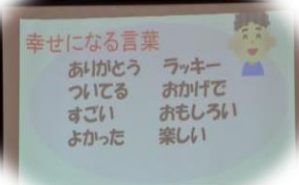




校長講話「幸せになる言葉の力」

10月12日の校長講話で、「幸せになる言葉の力」の話をしました。

幸せになる方法は、とっても簡単。それは、幸せになる言葉をどんどん使うこと。例えば、「いい日だな。うれしいな。」と言うと、脳は、いい日だという理由を探し始めます。今日は大好きな教科がある、給食はカレーでラッキーとか、そしてもし雨が降っていても「やったあ、これで水不足が解消するぞ」など、いい日だなという理由を脳が探してくれます。このようにどんな言葉を使うかによって幸せな気持ちになるか、不幸な気持ちになるか大きく変わってることが長年の研究で分かってきました。口から出た言葉は言霊と言って人の気持ちや行動を左右すると言われてきましたが、今では脳科学で証明されています。みんなを簡単に幸せにするおすすめの言葉を紹介しました。一日のはじめや何かをするときに、自分を幸せにする言葉をまず口に出すことで、まず自分自身が幸せになりましょう。幸せは周りの人に伝わり広がっていきます。幸せになる言葉を使って、笑顔いっぱいの楽しい寒川小学校にしましょう。



書道文化醸成事業

四国中央市の文化・教育振興事業の一環として、福岡教育大学の服部一啓先生をお招きし、6年生を対象に「書いて伝え合おうー大事にしたい言葉を書くー」の出前授業を行いました。服部一啓先生の他にも伝統工芸士の有高智佳代氏と手すき和紙職人の大西満王氏、福岡教育大学の学生さんが協力してくださいました。服部先生から文字の成り立ちや書道についての説明を受けた後、大事にしたい漢字を手すき和紙に「かずら筆」でしたためたオリジナルカレンダーと、水引の「梅結び」を付けたブックマークを制作しました。子どもたちは、終始目を輝かせ集中して取り組んでいました。書道と水引で文化を結び、人・物・自然が豊かにつながる学びとなりました。四国中央市だからこそできる貴重な学習の機会をいただき、本事業に関係した皆様方に感謝いたします。



さようなら、すずかけ これまで寒川小学校のシンボルとして、子どもたちを見守ってくれた「すずかけの木」を15日に伐木します。台風14号で大枝が3本落下した上、幹や枝には大きな洞が多くできています。専門家に見ていただいた結果、今後倒木や枝の落下の可能性が高いことから伐木することになりました。シンボルツリーである「すずかけ」は、寒川小学校の児童だけでなく、卒業生や地域の方々に愛され、深い思い出があります。大変名残惜しいですが、子どもたちの安全には代えることができません。ご理解くださいますようお願い申し上げます。